

秦野斎場増築改修工事について

秦野斎場は、昭和51年の供用開始から40年以上が経過しており、火葬炉設備や建物の一部に老朽化が進んでいます。また、高齢化の進展に伴い、現状の施設では将来的な火葬需要の増加などに対応できないため、平成28年11月から増築改修工事を進めてきました。この度、増築棟が竣工を迎え、平成30年4月1日に供用開始となります。

1 施設の概要

既存の秦野斎場は、火葬炉を5炉、待合室を5室設けた施設ですが、**増築改修工事後は、火葬炉が7炉、予備炉スペースが1炉分の8炉対応で待合室が8室**（※平成30年4月時点では4室）の火葬場となります。

また、従来の施設と比べ、排ガス処理や災害対策などの強化を図り、さらに光、風、地熱など自然エネルギーを有効に活用する環境に配慮した施設となります。

(1) 施設概要等

項目	概要	
区域面積	約 5,900 m ²	
建築面積	約 2,450 m ² （内、増築棟は約 1,590 m ² ）	
延べ面積	約 3,250 m ² （内、増築棟は約 2,660 m ² ）	
構造等	増築棟：鉄筋コンクリート造、鉄骨造の混構造2階建て 改修棟：鉄筋コンクリート造平屋建て、内外装を改修 既存火葬棟：増築棟の完成後に解体撤去	
火葬炉	台車式火葬炉8炉（うち1炉は予備スペースとし、当面は7炉で運用）	
排気筒	屋根と一体感を持ったデザインの排気筒を増築棟に設置	
事業費	1,961,787,600円（建築工事、電気設備工事、火葬炉設備工事、機械設備工事の合計額。既存火葬棟の解体工事費は含まず）	
主な設備等	排ガス対策関連	バグフィルター、再燃炉、送風機
	災害対策関連	1.25倍の耐震性を確保、燃料等備蓄槽、施設内で使用する雑用水の備蓄槽、非常用発電機等
	自然エネルギー関連	自然光利用の天窗、光遮蔽用の木製及びコンクリート製のルーバー、風を循環して排熱及び地熱の活用、雨水利用
	地産地消関連	床材及び壁と天井のルーバーに杉を主体とした地元産の木材を使用、内外木製ベンチ・照明カバー等に使用する組子細工は地元生産品
	その他	エレベーター2基、空調換気設備、火葬炉設備制御機器等

(2) 外観デザイン図

西側の工場側から見た秦野斎場外観



～「山並みと呼応する大屋根を持つ、ふるさとの民家」をイメージ～

正門側から見た秦野斎場外観



2 今後の予定

増築棟については、平成30年4月1日に供用開始となりますが、秦野斎場では、引き続き、既存火葬棟の解体や待合棟の改修及び外構工事等を進め、工事全体の完了は、平成31年3月を予定しています。